




論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	楠川 智之
論文担当者	主査 <span style="font-size: 1.5em;">八木 香司</span> 
	副査 <span style="font-size: 1.5em;">池内 碧基</span> 
	副査 <span style="font-size: 1.5em;">岸本 裕亮</span> 
学位論文名	Subsequent Domino Osteoporotic Vertebral Fractures Adversely Affect
	Short-Term Health-Related Quality of Life: A Prospective Multicenter Study
	(骨粗鬆症性椎体ドミノ骨折は短期の健康関連 QOL を低下させる
	～多施設前向き研究～)
論文審査の結果の要旨	
<p>骨粗鬆症性椎体骨折(osteoporotic vertebral fracture : OVF)は骨粗鬆症患者の増加に伴い増加している。OVFはそのほとんどが保存的加療により症状の改善が得られるが、ADL や QOL を低下させ死亡率にも影響することが知られている。日本において新規椎体骨折患者の発生率は 24.5/千人年と報告されている。その中で OVF 受傷後 1 年以内に続発椎体骨折を呈するものは 68.8/千人年と報告され、新規椎体骨折に加え続発骨折の予防も肝要であると考えられる。</p> <p>申請者らは短期間で連鎖的に複数椎体に OVF を呈するものを椎体ドミノ骨折と報告している。椎体ドミノ骨折は ADL に悪影響を及ぼすことが知られており、申請者はその発生率やリスク因子、ADL への影響を調査するため多施設前向き研究を行った。</p> <p>初診時に OVF を認めた 60 歳以上の患者を対象とし、その 3 カ月後に MRI を施行し他椎体に OVF を認めたものをドミノ OVF 群、他椎体に OVF を認めなかったものを非ドミノ OVF 群として両群間で患者背景、治療内容、臨床成績を比較した。ドミノ OVF の発生率は 13.6% であり、ドミノ OVF 群は既存椎体骨折が多かった。治療内容に両群間に有意差は見られなかったが、84.1%の患者は骨粗鬆症が未治療であった。3 ヶ月時点では JOABPEQ の社会生活の項目、腰痛 VAS、ODI の値がドミノ OVF 群で有意に悪かった。</p> <p>申請者は、既存椎体骨折が多いことが椎体ドミノ骨折の危険因子であり、椎体ドミノ骨折が ODI や腰痛 VAS、社会生活やその改善に悪影響を与えることを明らかにした。本研究は、骨粗鬆症患者の早期発見とその介入の重要性を示したものであり、学位授与に値すると判断した。</p>	